

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年7月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋なす JAめぐみの就農塾

7月2日に、関市小瀬の夏秋なす圃場にて、第3回就農塾夏秋なすコースが開催され、4名の受講生が出席した。

今回は、なすの誘引、収穫、整枝剪定について研修が行われ、夏秋なす生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、収穫基準や作業時の注意点について説明を行った。受講生は熱心に説明を聞いた後、実際に作業を行った。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を行い、受講生のスムーズな就農支援をしていく。

(地域支援係)



【整枝剪定の説明】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） 栽培研修会

7月8日、12日に、JAめぐみの水稻青空教室が開催された。

出穂4週間ほど前を目途に品種ごとに開催され、幼穂や葉色を確認し、穂肥の適期及び量を指導するとともに、病虫害防除の徹底を指導した。8日は「あきさかり」、12日は「ほしじるし」「モチミノリ」で幼穂が確認され、平年並みの出穂期が予想された。

農業普及課では、水稻種子の収量・品質を確保するため、今後も巡回指導や研修会を通じて、栽培指導を行っていく。

(地域支援係)



【青空教室】

■大豆 播種

7月上旬から、大豆「フクユタカ」の播種作業が開始され、令和6年産は約160ha作付けする予定となっている。農業普及課ではJAめぐみのもと連携し、ほ場準備や適期は種、初期の雑草防除についての指導を行っている。

7月23日には、収量・品質の向上を目指して、地域に適した肥培管理について試験を行うための肥料試験区の播種が行われ、JAめぐみのやJA全農岐阜などの関係機関とともに支援を実施した。肥料試験区については、生育段階に合わせた生育調査や収量・品質調査を実施する予定である。

農業普及課ではJAめぐみの等関係機関と連携し、大豆の安定生産を目指して、生育期間を通じて生育状況の把握や適期作業の励行等を指導していく。

(地域支援係)



【進む播種作業】

■水稲 害虫調査

近年、水稲の出穂前からほ場内に侵入し、出穂と同時に水稲を加害するイネカメムシが多発している。今年も早生品種を中心に7月上旬頃からほ場で確認されており、また7月19日付で岐阜県病虫害防除所から、斑点米カメムシ類の病虫害発生予察注意報が発表された。

これを受け、農業普及課では、JAめぐみのと連携して生産者向けの技術資料を作成し、注意喚起を行うとともに、管内早生品種ほ場ですくい取りによるイネカメムシの発生状況調査を実施した。調査の結果、数頭の発生が確認され、適期防除が必要であることを確認した。

今後も定期的に害虫調査を実施し、生産者へ適期防除に向けた情報提供をすることで、水稲の収量・品質の確保を図っていく。

(地域支援係)



【すくい取り調査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 通常総会の開催

7月18日、JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会は、ほらどキウイプラザで第42回通常総会を開催した。

総会には生産者、来賓を含む27名が出席した。各議事の承認が行われるなか、役員改選が行われ、新部会長を始めとした新しい役員が承認された。

総会終了後には、農業普及課より栽培研修会を開催した。グリーンな栽培体系転換サポート事業の成果を基に、土壌pHの調整や栽培履歴の記入項目の説明を行い、品質のよいキウイを安定的に供給できる産地を目指すことを確認した。また、ブランド化事業を利用したキウイのPRステッカーを配布し、産地機運の向上を図った。

(地域支援係)



【総会の様子】